

経営比較分析表（令和2年度決算）

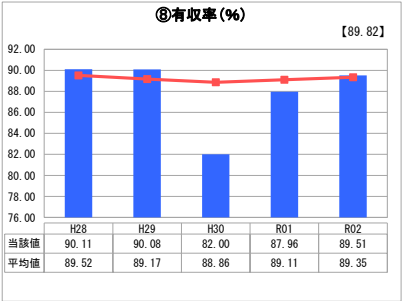
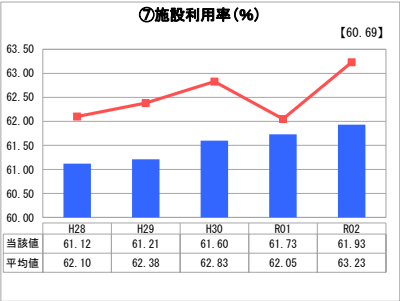
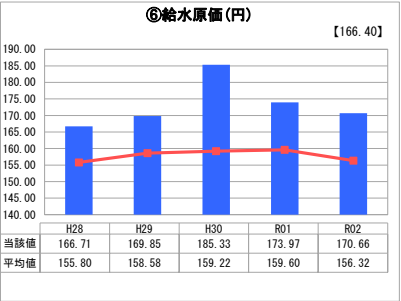
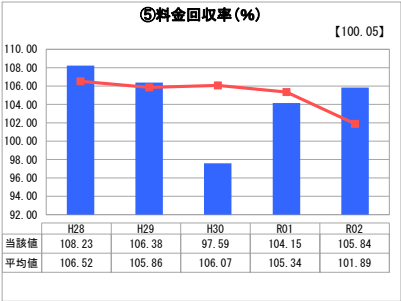
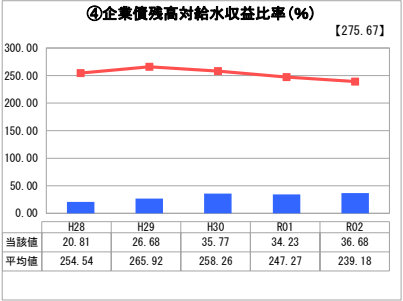
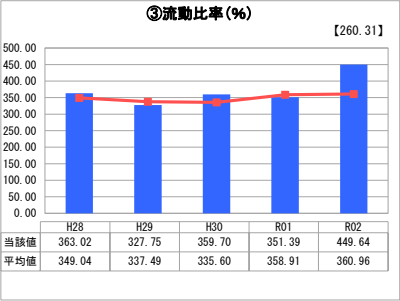
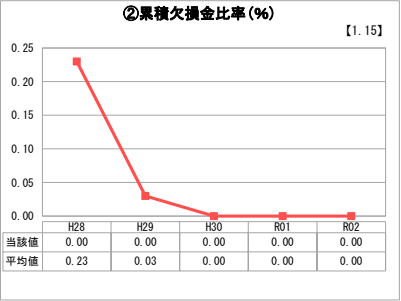
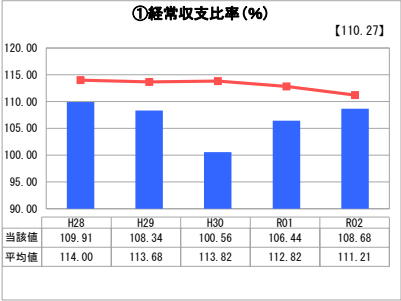
岐阜県 多治見市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡あたり家賃料金(円)	
-	91.44	99.95	3,168	

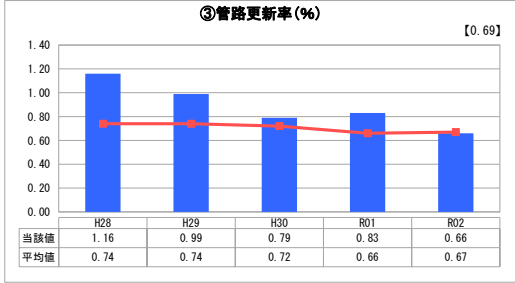
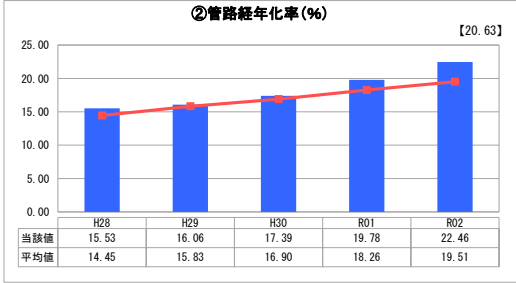
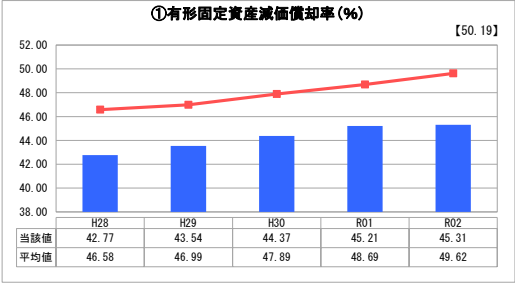
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
109,453	91.25	1,199.48
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
108,874	86.40	1,260.12

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

当市水道事業の令和2年度の経営状況について、経常収支比率は100%を超えており、累積欠損比率についても前年度に引き続き0%。その他経営の健全性を示す指標においてもおおむね良好な状況であるといえます。経常収支比率は類似団体平均値よりも低い数値ですが前年度よりも増加しています。併せて料金回収率の数値が高いことから経常収支に料金収入の割合が増加しています。これはコロナ禍で在宅時間が増え、家庭での水需要が高まったためとみられます。しかしこれは一時的なものであり給水人口は年々減少し続けているため全体的な水需要は低下しています。それにより料金収入は実質減少傾向にあるため給水に係る経費を減らし収支比率の向上を図ることが必要になります。

令和2年度当市水道事業は老朽化した施設の更新のため企業債の借入れを行いました(90,000千円)。平成28年度から継続して企業債の借入れを行っており、企業債残高は増加していますが、企業債残高対給水収益比率は類似団体平均値との比較でかなり低い数値となっています。

流動比率は400%を超え高い数値を維持しており、短期的な資金繰りの安定性は高いといえます。

施設利用率は類似団体平均値よりも下回っていますが年々上昇傾向にあり、施設の利用状況は適正化されてきているといえます。併せて有収率が前年度よりも増加していることから施設使用率の向上が有収率向上に起因しているといえます。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率及び管路経年劣化率をみると、右肩上がりで上昇しており、管路等の老朽化は年々進行しています。令和2年度は夏季の気温が高く水温上昇による水道管へのダメージにより8月～10月にかけて漏水が多く発生しました。

管路更新率は前年度と比較して減少し類似団体平均値よりもやや下回りました。主な要因としては、執行した予算全体のうち委託費や舗装工事の占める割合が多かったことが挙げられます。

今後も、災害時に備えて配水池から避難所や重要施設へ直結する配水管路、老朽化した配水管、老朽化した施設などについて、限られた予算の中で補助金等を積極的に利用しながら、計画的に更新を行っていくことが重要になります。

全体総括

当市水道事業の令和2年度時点の経営状況は、各指標の示すとおり、比較的良好な状況を保っています。しかし、老朽化を示す指標は年々低下傾向にあります。人口減少の影響で今後、料金収入が減少していくことが見込まれます。有収率は毎年減少傾向にありましたが、令和2年度は90%近くまで回復することができました。この状況を維持、改善していくことが急務となります。

水道事業を安定的に継続していくためには補助金の積極的な活用、計画的な起債の借入、効率的な経営実施によるコスト削減に取り組み、さらには水道料金の値上げも視野に入れながら、様々な対応を検討していく必要があります。

今後も効率的な事業運営に努め、経営の健全性を確保するとともに、住民の皆様安心して安定的に水道を使っているよう、努力してまいります。